

佐志区公民館だより 第5号①

発行責任者：三角航洋

令和4年度佐志地区公民館新体制スタートする！

佐志区公民館長 三角航洋

今年も農業機械のエンジン音が響き渡る時期となりました。私の小さいときは「結いの制度」とも言われた共同作業が賑やかだったことも懐かしいところです。田んぼの畔で10時と3時のお茶の時間が何よりの楽しみだったのも思い出です。ご近所同士、親戚同士でお互いに手伝いながら、結いをして回る田園風景がどこでも見られるものでした。季節感を感じるのもこの時期でした。学校も「猫の手も借りたい」と言うことで「田植え休み」が設けられていた頃もあったらしい（私の年代では記憶にありません？）。今では到底考えられない光景です。

「佐志田んぼ」や「佐志てねげ」（手ぬぐい）は唯一、佐志区民の特色を表しているものと思います。働き者が多かった表現ではないでしょうか。創立150周年を迎えた、佐志小学校の校歌にも随所で佐志区の様子を絵にかいたような歌詞になっているようです。

さて、まもなくすると「団塊の世代」と言う年代が後期高齢者（75歳）を迎えるころになると言われています。さつま町と佐志区の高齢化率（42%前後）はほぼ拮抗しています。生涯現役と言われて久しいですが、社会情勢が大きく変化する時期とも言われています。佐志区でも「これまでも、これからも大変になる」ことを自覚したいものです。

最後にすでにご承知の通り、町より「佐志交流館（公民館）の無償譲渡」の通告を受けているところです。佐志区に無償で譲渡する運びになるわけですが、リスクもあります。この大きな建物を維持管理するには区民の皆様への負担が大きくのしかかってくるのは一目瞭然です。区の基本は公民会です。中古館（築40年以上経過、耐震済）の無償譲渡を受けるか、受けないかの判断だけですが、これまでのようには行かないことを念頭に置いてください。区民の皆さんの意見集約を図りたいと思いますので、各公民会で協議願います。長くなりましたが、今年も区公民館の諸活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

佐志区の主な組織

【公民館役員】

役 職	氏 名	公民会
公 民 館 長	三角 航洋	豆 漬
副 公 民 館 長	豎山 敏久	さくら
会 計	福田 澄孝	布 田
総 務 部 長	前之園 輝美	木 渋
文 化 部 長	深川 紀子	ほたる
産 業 部 長	竹中 修一	木 渋
女 性 部 長	宮之脇加代子	さくら
体 育 部 長	福島 正浄	あながわ
福 祉 部 長	豎山 敏久	さくら
監 査 委 員	橋口 正人	仮屋原
監 査 委 員	米良 瑞枝	さくら
代議員会議長	谷山 奉文	田 原
広 報 委 員 会	久保 敬作	広 瀬
ニュー女性部長	岸良よし子	豆 漬
青少年育成委員	橋口 正人	仮屋原

【公民会役員】

公民会名	世帯数	公民会長	スポ-ツ委員	女性部代表	代議員	民生委員
木 渋	35	前之園 輝美	仮屋 智和	竹之中 良子	前之園 定則	内之倉 澄昭
仮 屋 原	58	石之野 利広	仮屋原 亮	石之野 望美	伊地知 和美	藺田 武徳
前 目	28	内 清美	中原 隆裕	瀬戸口 淳子	◎谷山 奉文	
ほ た る	52	東 幸廣	山崎 博文	東 敬子	小川内 繁	湯之原 弘巳
広 瀬	39	山崎 誠	宮里 知弘	東郷 美雪	長迫 敏文	松山 まち子
池 之 野	34	池之野 清治	池之野 義和	今園 育美		
さ く ら	49	豎山 敏久	米澤 祐樹	有馬 薫	原之藺 浩毅	宮之脇加代子
上 寺 下	49	手塚 和昌	東 英樹	石之野えみ子		
豆 漬	58	岩崎 克徳	宇宿 真悟	坂元 光子	馬場 純司	内堀 正幸
布 田	43	木下 孝幸	中村 孝平	坂元 千恵美		
あながわ	134	高代 孝	中間 茂	小西 ゆかり	川津 和家	栗屋野 茂子
田 原	68	原之藺 研作	東 正弘	宮脇 美保子	◎谷山 奉文	
計	647					

※◎は代表・責任者

【さつま町消防団 佐志分団】

役 員		
分団長	川津 充弘	あながわ
副分団長	豊増 浩三	田 原
部長・班長	福山 恵三	上寺下
会計・班長	楠原 重孝	さくら
班長	内山 敬太	仮屋原

団 員						
竹中 正洋	木 渋	池之野 智幸	池之野	福島 正浄	あながわ	
中原 隆裕	前 目	久保 文崇	上寺下	今東 佑介	あながわ	
桐野 靖禎	ほたる	岸良 剛	豆 漬	栗屋野 友博	あながわ	
小川内 陽介	ほたる	折小野 仁	あながわ			
田中 光洋	ほたる	久保藺 貴政	あながわ			

【財産管理委員】

担当公民会	氏 名
木渋・仮屋原	◎橋口 正人
ほたる・前目	山崎 文久
広瀬・池之野	池之野 新一
さくら・上寺下・豆漬・布田	河野 修一
田原・あながわ	竹下 忍

南 節氏逝く 99歳の大往生

佐志区公民館長を平成6年から7年4ヶ月に渡り務められた南 節さんが亡くなられていたことがわかりました。

南さんの足跡は右記の通りですが、戦時中難関の通信士の資格を取得し、軍船に従事していたときに敵の魚雷を受けて乗船していた船が沈没。流木につかまり、命からがら帰国されましたが、佐志穴川での水泳が助けてくれたと話されていました。

帰国後は、縁あって「日本通運」に入社されましたが、類稀な弁舌で組合トップを務め、最後は支店長での退社でした。

佐志区公民館長に就任後は、16公民会を今の12公民会に合併を推し進め、町役場との交渉での一步も引かない姿勢は、かつての組合トップを彷彿させるものがありました。筆者は南さんが公民館長時代に体育部長を務めましたが、全ての責任を私に一任されて、それを意気に感じ、一生懸命活動した記憶が甦ります。

奥様のお話では、座椅子に座りながら眠るように旅立たれたということでした。どうか、安らかな永眠をお祈りします。

和暦	記 事
大正13.3.15	中公民会（現あながわ）に生まれる。
	佐志尋常高等学校を卒業する。
	朝鮮鉄道局に入局する。電信通信士の資格を取得する。
	乗船していた軍船が魚雷攻撃を受けて沈没するも生還。
戦後	日本通運に入社。組合専従トップになる。熊本支店長を務める。
昭和60年	佐志に帰省する。
平成6.12	佐志区公民館長に就任する。
令和4.3.9	安らかに永眠する。

佐志区公民館だより 第5号②

発行責任者：三角航洋

3年ぶりに開催！ さつま町壮年ソフトボール大会



さつま町壮年ソフトボール大会が、コロナの影響で2年間中止となっていました。3年ぶりに「さつま町壮年ソフトボール交流大会」として開催されました。佐志区は、「のんごろーズ」チームを中心に交流大会に臨み、健闘しました。

本大会は、さつま町全体の20地区に声をかけての大会でしたが参加チームは、8チームにとどまり、寂しい大会となりました。特に旧宮之城町から

は、佐志区と平川区のみの参加で、中心部の宮之城屋地区や虎居区の不参加は、疑問が残るところでした。兎にも角にも、スポーツ行事が再開されたことは、明るい材料です。2年間の閉塞感から開放されて、元の生活に1日でも早く戻ることを祈っています。

【試合結果】

(1回戦)

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
平川	0	2	0	0	4			6
佐志	4	0	0	2	0			6

(2回戦)

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
鶴田	0	0	0	0	0	0		0
佐志	3	0	1	0	0	0		4

【参加者】

監督	三角公民館長 ※代打出場も
主将	永野 彰彦

前床 倫人	永野 彰彦	楠原 重孝
原之蘭 学	迫田 典弘	松田 一朗
松山 栄進	牟田園 和行	福島 泰幸
宮之脇 智彦	内山 敬太	仮屋 智和
中山 健一郎	東郷 太郎	春田 篤宏
宮里 知弘	今東 昭洋	中間 ミ力
小西 ゆかり	中間 茂	福島 正宣

我が村自慢 第8回 上寺下編



上寺下公民会は、お寺（興詮寺）の麓に広がり、佐志で唯一、小学校や保育園、交流館などの施設が集まっており、朝の朝礼など元気な声を聴くことができます。

また、年2～3回交流館周辺の草刈と、池之野に向かう三叉路の右上奥にある戦没者慰霊塔や熊野神社の清掃をさくら公民会と交互に行っており、合同で火の神様祭りの例祭を行っています。

すべての行事において、強制ではなく、自主的に協力し合っている所が自慢です。

上寺下公民会長：手塚 和昌		
人口比率等		
戸数	49戸	比率
小学生未満	7人	7%
小学生	4人	4%
中学生	5人	5%
高校生	3人	3%
一般	74人	69%
75歳以上	15人	14%
合計	108人	100%

我が村自慢 第9回 豆漬編



豆漬公民会は、湧き水より流れる清らかな水辺の周辺にあり、昔は、豆もやしを栽培していたことから付いた地名だそうです。

湧き水は、ほのかな甘味があって評判で、現在も町内外からの利用者も多くいらっしゃいます。このような環境の中に病院、高齢者施設、コンビニもあり利便性も良いです。

また、将来的には、広瀬インターチェンジも出来て、さらに交通面でも便利になると思います。佐志駅跡に公民館があり、月1回の清掃作業に励んでいます。

豆漬公民会長：岩崎 克徳		
人口比率等		
戸数	58戸	比率
小学生未満	5人	4%
小学生	11人	8%
中学生	7人	5%
高校生	5人	4%
一般	72人	55%
75歳以上	31人	24%
合計	131人	100%

※この企画は、佐志区12公民会の持ち回りとなります。（12公民会／1年）